

授業評価アンケートに関する学生参加ワークショップ実施報告書

高等教育研究センター教育改革推進部門

目的

現在、教養教育の各授業において実施している毎学期末の授業評価アンケートについて、回答率の低下が問題になっている（表 1）。

表 1 近年の教養教育における授業評価アンケート回答率の推移

	全体	教養	創成科学	基礎	外国語
R3 前期	70.30%	67.78%	63.86%	58.08%	68.75%
R3 後期	48.15%	42.23%	39.75%	44.8%	49.61%
R4 前期	62.55%	57.93%	52.84%	47.45%	63.93%
R4 後期	43.4%	36.68%	30.59%	39.31%	48.92%
R5 前期	54.61%	53.08%	49.55%	47.9%	57.14%
R5 後期	37.1%	34.98%	32.43%	31.2%	39.12%

(<https://www.las.tokushima-u.ac.jp/about-our-institute/evaluation/> より作成)

したがって、今後は回答率の向上に向けた対策を立てることが必要となる。しかし対策の立案にあたっては、教員側だけでなく評価を行う側である学生の意見も聴取し、案に盛り込むことが必要であると考えられる。

これを受けて、今回教養教育院と高等教育研究センター教育改革推進部門が共同で、学生の意見を聴取する目的でワークショップを計画・実施した。

ワークショップにあたっては、教養教育を現在履修している学生（1・2 年生）に参加を呼びかけ、現在の授業評価アンケートにはどのような課題があるか、加えてその課題に対してどのような解決策が考えられるかについて議論し、共有することを目指した。なお、今回は学生だけでなく教養教育院の教員も参加してもらい、それぞれの立場から授業評価アンケートに対する課題と解決策について考え、共有を行った。

当日の実施内容

日時 2024 年 12 月 25 日（水）10 時～12 時

場所 徳島大学 常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館 5F フューチャーセンター

参加者 学生 14 名（総合科学部 2 名、理工学部 2 名、医学部 4 名、歯学部 6 名）

教員 7 名（高等教育研究センター 3 名、教養教育院 4 名）

当日、学生は A～C の 3 グループ、教員 1 グループの計 4 グループに分かれワークを実施した（表 2）。また教員 7 名のうち、高等教育研究センター教員と教養教育院 岩田 貴先生はファシリテーターを務め、各グループを回り助言を行った。

表2 ワークショップの流れ

1. 主旨説明	教養教育院 岩田 貴 先生
2. 論点説明	高等教育研究センター教育改革推進部門 飯尾 健
3. ワーク①	テーマ「授業評価アンケートの課題を書き出す」 1) グループごとに付せんに現在の授業評価アンケートに関する課題を書き出し、模造紙に貼り付ける 2) 付せんを動かし、類似した内容同士でグループにまとめる 3) まとめたグループを油性ペンで囲み、名称をつける 4) 完成した模造紙をグループごとに発表し全体に共有（別紙資料①）
4. ワーク②	テーマ「課題に対する解決策を考える」 1) グループごとにワーク①で出た課題に対する解決策を付せんに書き出し、模造紙に貼り付ける 2) 付せんを動かし、類似した内容同士でグループにまとめる 3) まとめたグループを油性ペンで囲み、名称をつける 4) 完成した模造紙をグループごとに発表し全体に共有（別紙資料②）
5. まとめ・アンケート	高等教育研究センター教育改革推進部門 飯尾 健 ● 事後アンケートフォームを送付し、本ワークショップの感想やワーク時に挙げられなかった追加の意見等を収集
6. 終了の挨拶	教養教育院 渡部 稔 先生

事後アンケート結果

事後アンケートフォームでは「今回のワークショップは有意義だったか」を4件法で、「今回のワークショップの良かった点」「今回のワークショップの課題や改善点」「ワークショップで書き足りなかったこと、終わってから思い浮かんだこと」について自由記述で尋ねた。その結果、学生14名、教員5名、合計19名からの回答を得られた。

以下ではその回答結果を示す（表3～5）。ただし、「ワークショップで書き足りなかったこと、終わってから思い浮かんだこと」については以下の分析に用いたため省略した。

事後アンケートからは、今回参加した学生・教員にとってはおおむね本ワークショップは有意義であったと感じていることが明らかになった。自由記述からは、率直に意見を出せたこと、他の参加者・教員の考えを共有する機会が持てたことが良かった点として多く挙げられた。一方で課題としては、ほぼ初対面の学生同士でワークを進める一方でアイスブレイクの時間がなかったことのほか、時期の問題や参加者の数や学部への偏り、課題・解決策も結局ありきたりなものになってしまったという意見が挙げられた。

今回のワークショップの意義と課題を踏まえつつ、学生の声をどのように聴取するかについては今後検討を深めていく必要があると考えられる。

表3「今回のワークショップは有意義だったか」回答結果

	学生	教員	合計
とても有意義だった	5	5	10
まあまあ有意義だった	8	0	8
あまり意義はなかった	1	0	1
まったく意義はなかった	0	0	0
合計	14	5	19

表4「今回のワークショップの良かった点」自由記述内容

学生	自由な意見を忖度なく話し合えた。
学生	意見を自由にだしあえたこと
学生	いろいろな学部の子の意見も聞けたこと
学生	他の学部の人と仲良くなれた点。 授業評価アンケートの問題点について知れた点。
学生	学部学科の違う人と意見交換ができるのは視点の違う意見が出て良いと思った。
学生	授業アンケートの回答率を高めるためのお題だが、授業アンケート自体を無くす意見が出たことは非常に良かった。
学生	色々な人と話して楽しかった
学生	教員側の意見も知れて良かった。
学生	このフォームくらいの質問数と選択と記述に割合で授業アンケートが実施されると良いなと思います。
学生	他チームとの共有時間をとってくれたのが良いと思いました。
教員	色々な学部からの忌憚のない意見が聞けて良かった 気づきもたくさんありました
教員	たいへん盛り上がりワークができたことが良かったと思います
教員	話し合いの時間が持てたこと
教員	学生が率直に意見を言える雰囲気でした。
教員	アンケートに回答する当事者である学生の率直な感想や意見に触れることができた。

表5「今回のワークショップの課題や改善点」自由記述内容

学生	是非意見を取り入れて授業アンケートを改善してください。
学生	今まででできた課題しかあがらなかった
学生	ありがちな回答だったので新たな発見があったかは微妙
学生	面識のない人や学年の違う人と、率直な意見を出し合うことは難しいと感じた。 「めんどくさいよね」というようなマイナスな言葉を出すことを躊躇ってしまった。
学生	今回のディスカッションを元に、何かしらの変化・アクションは行って欲しい。 現状の状態を維持するのはよくない。

学生	なぜクリスマスにするのか
学生	今回は学生と教員でグループを分けて行ったが、学生と教員を交えてディスカッションを行ったほうがもっと様々な観点を知った上でアイデアを出すことが出来たかもしれない。
学生	初対面の方が多かったのでアイスブレイクがもう少し多くても良かったと思います。
学生	アイスブレイクの時間を始めに取って欲しいと思いました。 解決策を考える際に、メンバーをシャッフルして行くと、元々の班では出ないような案が出るのではないかと思います。
教員	同じ内容で学部限定の WS をしても良いかも 教員のみ対象の WS もいいかも知れません
教員	もう少し学生さんが多く参加した方がいいと思います
教員	冒頭にこの話題でのフリートーク(2人1組)があるとよかったのでは
教員	参加者が一部の学部偏っていたので、学部のバランスを見直す方が良いと思いました。
教員	アイスブレイクは冒頭で行った方がよかったかもしれない。 マジックペンは太いものもあった方が遠くから見たときに見やすい。

ワークショップにおける成果物の分析

分析方法

各グループが示した課題・解決策については別紙資料①の通りである。

一方で、これらの内容をより深掘りすることを目的に、全てのグループが書いた付せん、ならびに事後アンケートの「「ワークショップで書き足りなかったこと、終わってから思い浮かんだこと」の自由記述の内容を用いて KJ 法による分析を行った。

分析方法は以下の通りである。まず、各グループの書いた付せんと事後アンケートの自由記述をカードに転記し、類似した内容をまとめた（その際に模造紙につけられたグループ名は考慮せず行った）。その後、さらに類似した内容をまとめてグループ化を進め、「課題」では 6 つ、「解決策」では 4 つのグループにまとめた。なお、一部のグループにはさらにサブグループを設けた。続いて、それらのグループおよびサブグループを比較し、相互の関係を矢印で示した。

分析結果

以上の通り KJ 法を行った結果を別紙資料②に示す。以下ではグループ・サブグループの名称は【】で示し、参加者は付せんに書いた内容については「」で囲う形で引用することとする。

まず、左側の「課題」については、【学生へのフィードバックの欠如】【アンケートに対する不信感】【アンケートへのメリット・デメリットがない】【学生の動機づけの低下】【アンケート実施における課題】【授業外では回答を忘れてしまう】の 6 つのグループが抽出された。

【授業外では回答を忘れてしまう】では、「授業外にやるのがダルい」「言われないとやらない」「アンケートの存在を忘れる」等、強制力がない授業外でアンケートへ回答を求められることが回答行動につながらないことを示唆する記述がまとめられた。

そのような行動につながると見られる直接的な要因が記述されたものとして、【アンケート実施における課題】と【学生の動機づけの低下】の 2 グループが挙げられる。【アンケート実施における課題】では、

質問項目の内容や数、回答形式といった【質問項目に関する問題】や、教務システムでしか回答できないといった【アンケートシステムの問題】、試験が集中する学期末の時期に実施する等の【実施時期の問題】、授業ごとに同じアンケートに回答する【授業ごとに回答しなくてはならない】、さらに回答に対するリマインドが来ない【通知の問題】の5つのサブグループが含まれる。とりわけ「教務システムの入室画面でしかアンケートを催促されない」といった【通知の問題】は、【授業外では回答を忘れてしまう】に対する直接的な要因となっていると考えられる。

加えて【学生の動機づけの低下】では、教養の授業自体に関心をもたないといった【授業自体への動機づけの低さ】や、アンケートへのモチベーションが上がらない【アンケートへの動機づけの低さ】がサブグループとして見られた。これらの動機づけの低さが、【授業外では回答を忘れてしまう】ことの大きな要因と言える。

さらには、【学生の動機づけの低下】を引き起こす要因として考えられる【アンケートへのメリット・デメリット】がないこと、および学生の間に【アンケートに対する不信感】のグループが見出された。すなわち、アンケートに回答してもしなくても何の影響もない【アンケートへのメリット・デメリットがない】ことがアンケートの動機づけの低下を招く要因の1つとなっていると考えられる。加えて、アンケートにどのような意味を持つかが分からない、アンケートを行って授業改善につながるのか分からない、そもそも教員がアンケートを見ているかどうか分からないといった【アンケートに対する不信感】があることも、アンケートの動機づけの低下につながっていると言える。

しかしながら究極的には、アンケート結果の【学生へのフィードバックの欠如】があると考えられる。学生からは「アンケート結果を公表してほしい」といった記述があり、アンケートに回答してもその結果がどうなったのかが分からないことがアンケートに対する不信感や、アンケートのメリットやデメリットがないと感じることにつながっていると推察される。

加えて右側の「解決策」では、【フィードバック・改善の実施】【アンケートへの動機づけを高める】【アンケート実施体制の改善】、最後に【アンケートに頼らない（やめることも含む）】の4つのグループが抽出された。

まず【アンケート実施体制の改善】は、質問項目を削減し5分程度で回答できるようにするといった【質問項目の改善】、学生にとってよりアクセス回数が多く身近なmanabaでの実施を中心とした【アンケートシステムの改善】、メールでの通知や案内回数を増やす等の【通知方法・回数の改善】、学期末ではなく授業の中盤で行う【実施時期の改善】、授業外ではなく授業時間内の一部にアンケートへの回答時間を確保する【授業内での実施】のサブグループが挙げられた。

続いて【アンケートへの動機づけを高める】では、アンケートの意義を学生に説明し理解してもらう【学生への内発的動機づけ】と、アンケートの回答を授業評価に含める、商品券等の報酬を与える、逆に回答していない場合ペナルティを課す【学生への外発的動機づけ】、さらに教員に対してもアンケートの結果を教員業績評価と関連させるといった【教員への外発的動機づけ】といったサブグループが見られた。

また、授業評価アンケートの根底にある問題であるフィードバックの欠如に対応するものとして【フィードバック・改善の実施】のグループが抽出された。これには4つのサブグループがあり、上述した教員の外発的動機づけをもとに、教員がアンケート結果を確認し、フィードバックと改善を学生に約束するようにする【教員に責任を持たせる】こと、さらにそれをもとに結果を回答した学生や来年度履修選択の

際に提示する【学生へのフィードバックの実施】、あるいはアンケート結果をもとに教員がどのような改善を行うか【改善の方針を示す】こと、加えて実際に【改善とその報告を行う】ということが解決策として挙げられた。

しかしながら、他方でアンケートをやめる、教員はアンケートに左右されることなく授業を行ってもよいのではないか、といった【アンケートに頼らない(やめることも含む)】というグループも抽出された。これはアンケートの回答に対する労力や動機づけと大学・教員への改善への期待を現実的に考えた結果の選択肢であると言える。

まとめ

以上のように付せんを KJ 法で分析した結果、授業評価アンケートの回収率の低下は以下のような構造的なものであることが明らかになった。

- 1) アンケートに回答してもフィードバックされない・改善されない。また、
- 2) それ以外にアンケートに回答する動機づけとなるメリットやデメリットもないため、
- 3) 授業外で回答するのが面倒になっている。

これは表 1 で示したように、前期ではある程度回答率があったものの、後期では回答率が下がっている現象とも整合している。すなわち、学生は前期ではアンケートの要請に応じてある程度回答するものの、その結果に対するフィードバックがないため後期では動機づけが下がり、回答率が低下したということが説明できる。

以上を踏まえると、アンケートの回答率を高めるには対処療法的な方法だけでは不十分と言える。すなわち、通知を積極的に行ったり、授業内でアンケートを実施するだけでなく、根底にある結果のフィードバックや改善の実施とその結果の公開を進めていくことが重要である。そのためには、個々の教員の取り組みのみならず教養教育院全体での仕組みづくりが求められる。

その他

大学では「単位」が
評価がメイン。
別の評価(評価
返り)があること
より。

悪いことを
書いた後
どうするか
(匿名で送る)

回答するページまで
いくつもクリックを
しなければなら
ない(面倒)

この授業はイヤ
だったの。後輩
が「俺」にちなみ
て「俺」を「俺」

PCやスマホに入力する
よりは、紙のワーク
シートが配られる
方が回答率は
上がるのでは。

面倒

回答するの
が面倒
アンケート
自体が
キライ
答えたくない
質問の文が
わかりにくい
設問が多い
(?)
意味のわかり
にくい設問が
ある。
全部の授業に
回答するのは
負担が大きい
毎授業で
アンケートを書
くのは面倒

ワーク
①

交互

反骨精神

先生が言うた
こと。回答率が上
がることを
望みたい
大学の言いなり
になりたくない
(反骨精神)
そもそも授業
以外で「俺」が
強いのは
イヤだ。
教員の言うこと
には反対が
多い(授業の進
捗にたない)
二人もアンケート
なんて、大学の
自己満足で
いい。
対外的な授業

改善?

回答しても
(1)の文書が
多いと思われ
たり
授業内容の
変化が「自分
の意見」が
反映され
ない
体験が
少ない
(ない)

アンケート結果に
よって改善した
ところがある
が、今のところ
まだ
アンケートの結果
で「俺」が
多いと思われ
たり
(改善を
求めている)

回答がどのくらい
利用されているか
わからない
(教員への
フィードバック
が通るか)

回答した後の
フィードバック
が
少ない
ない

意味

そもそもアンケート
の意義が
わからない
そもそも
回答率が
高くない
理由?

時期

もう授業は
終わったので
どうでもいい
授業期間中に
改善したいこと
を
用いた
期末の1回では
改善に(直接)
つながる
最後の頃では
「時期」が
悪いのかもしれない
期末テストの
当日はテスト時間
が短くなる。
統括授業では
出席率が低い。

困らない

自分が回答し
なくても大丈夫
ではない
回答しなくても
特に困らない
回答しなくても
「俺」が
多い
「俺」が
多い
「俺」が
多い

教員は?

教員がアンケートに
興味を持って
いない
教員は
アンケートへの回答
について
どう
活用しているか
を
アンケート
教員が回答を
見ていない

メリット

回答する
メリットが
ない
回答しなくても
特にメリットが
感じられない
回答する
モチベーションが
低い

教員グループ「解決策」

その他

完全に匿名
であること
周知する

担当教員本人では
なく、別の人から
回答を促す

AIが学習
システムを
作るシステム
の導入に使う

面倒

アンケート内容
を簡潔にする

項目(設問)
を減らす

アンケートのサイト
へのリンクを
簡単に示す
(QRコードなど)

QR
コード

自由記述の
表示方法も
考える
(クリックで開く)

7-7②
数量

反骨
精神

教員と学生の
信頼関係を
築く
(どうやる?)

改善

授業アンケートの
意義を学生に
周知する

アンケートの目的
意図を説明する

アンケート結果を
授業が改善した
例を公開する

アンケート回答
の悪い教員に
ハナハタ課す

アンケート内容の
悪い教員に
ハナハタ課す

アンケート評価
が教員業績
評価に反映
しない

アンケート評価を
教員に課する
大学の評価に
直結させる

意味

学生からの声を
随時聞くこと
ができる(くみ
をやる)

授業(大学)へ
モチベーション
の向上機会と
なるアンケート
の権威が高まる

授業アンケート
の結果をもと
に活用する

教員への
フィードバックの
方法を考える
(確実に見るように)

時期

早い時期に
変更する
(改善できるもの)

授業の7-8回
くらいはアンケート
を行う

回答時期を
早める
3~5週目

困らない

アンケートに答
えなければ、学生
が困る(くみ
をやる)

回答してない
ことを
バレる
システム
回答したと
成績が
でない

メリット

結果を次年度
受講希望者
みられるように
する

アンケートの回答
を授業の積極
的な参加と
成績に反映させる

アンケートの
ランキングの
発表

回答により
成績が
1点、自動的に
上がる

学生で、アンケート
回答率の高い人
を表彰する

回答すること
に
メリットを認める
(しない人バカにする?)

アンケートに答
えなければ、学生
にメリットが
ない(例を伝える)

学生Aグループ 「課題」

興味関心

授業中にも
興味がある(?)

興味のある人が
多い
(教養教育)

回答のしにくさ

回答を
返れる

授業中に
実施する

授業外に
10分がたり

アクセス

スマホの場合
画面が見づらい

通知が来ない

教育システムも
開く頻度が
人によって違う

質問数

1つのアンケートに
回答する時間が
長くなる

質問の数が多い

先生の授業を評価
するのに自分の授業
中の態度を評価し
ないといけないのはなぜ?

項目が
多すぎる

項目数が
多すぎる

質問数が多い

情報不開示

評価が
どのように授業に
反映されるか
分からない

アンケートをちゃんと見
て、改善してあるのか

アンケート結果が
どのように反映されて
いるかわからない

メリット・デメリット

自分も還元
される

回答しても
メリットが
感じられない

答えたい
デメリットが
ない

回収率の重要性

回収率が
高くないと
なる

文句がある人は
直接言いにいく

学生Aグループ 「解決策」

回答のしにくさ

授業中に
実施

課題(manaba)
に移す
一緒にやる

授業中に
アンケートを
行う

授業内で
行う

最後の授業で
組全体でアンケ
ートをとる

manaba
のもの、17
13し〜

しつこく
通知

PC推奨
or
スマホ改善
見や可〜

manabaで
アンケートを行う

manaba上で
アンケートの実施

興味関心

出席や
単位の点に
加える

授業中に
説明

×自己のふりがえり
の先生の評価

アンケート提出
をしたら
加える

質問数

質問数
減らす

自由に書く項目
を増やす

質問数と
はらう
3??

授業中のアンケート
回答する時間を
減らす

質問を統一
して数を減らす

質問数を
へらす

情報不開示

回答率の
開示

学期初めの授業
で前期のアンケート
結果をどう反映
されているか伝える

先生がどのように
改善しているか伝える

総括授業
でのフィードバック

アンケートという
授業を減らす
が難しいと示す

どのように反映
されるか、学期の
初めに示す

manabaなど
先生から
フィードバック

回収率の重要性

授業点に
なる

アンケートに答えない
と単位あげない

学生Bグループ 「課題」

FD用

回答を忘れる

回答する
メリット
メリット

生徒側には
メリットが
ほしい

アンケートを答える
までで授業の
一端を占める

回答の
強制化
強制化

質問文が
わかりにくい

質問が長すぎる
ないで、答えてほしい

質問が授業中に
あると、授業が
進まない

授業中の授業で同じ
質問がある場合
は、その授業で
回答しない質問も
ある

授業中に
授業形式が
変わるから、質問が
あてはまらないことがある

質問内容

画面が
半紙

やってて
楽しくない

回答すること
の楽しさ

アンケートの
選択肢

回答の指示
がない

選択式の時に記述式の
回答を期待するのと同じ
ように一つは、

良い悪いの
間が多い

良い悪いの
1 2 3 4
があったら、すべて
2にしている

質問の数が多
い

スローにする
の場面例

質問数が
多い

質問が
多い

時間か
かる

授業の教だけ
回答しないとい
けない

長すぎて
無心で回答
してしまう

パソコンでやる
ことがめんどく
さい

結果を見て
納得するの？
ない

アンケートの意
味が伝わらない

アンケート
結果

アンケート結果
を公表してほしい

入力が面倒

後期の授業
が全て終わる前
に出さざるを得
ない状況で、授業
中

授業中にや
ってほしい

忘れる

やるのを忘
れる

教務システムで開
かないアンケートが
多い気がする

答えるのを
忘れる

回答する
必要ない

学生Bグループ 「解決策」

FD用

KOKUYO 77-223

B

2

答えやすさ

良いか悪いか
2つにする

質問と簡単
にする

質問文の聖書
しい言葉をもとに学生
に合ったり質問言葉に
変える

回答をみる

学生の
わかりやすい
メリット

大学の進路に
使える動機

提出したら、自動的に
いくじびき 成績が出る
(等)等、授業内容に
制度で決ける
生協がアンケートで当た
り合っている

回答した人
単位をあげ
ない

生協のしや
アタゴつのような
景品をつける

次年度の学年が
最も多く見られる
ところへ、授業内容
のヒントになるようする

入道後の(年生
とも合ったりする
ところへ、結果を
のせる

提出したときに
楽しかなるよう
鳴らそうにする

とくぼんを
入れる

アンケートの
ページにロゴを
入れる

回答する
の楽し

アンケートを答えない
と、成績システムで
見えないようにする

ポイントをつける
へ
回答ごとに

期末の点数
を5点くらい
上げてほしい

回答する

メールにURL
をいれて、クリック
したら、そのとき
でさうようにする

メールで通知
をすればいい
のでは?

結果をmanaba
のコースニュースで
通知して公開

授業中に時間
を設ける

マナバのなか
でよく見る

マナバのアンケート
を使う

所用時間 5分
+ 成績をみたら
ら 回答する

回答時間

前期と後期
の方が締切り
が短い

アンケートの公開
期間と授業
が10回くらい
から

アンケートの
締切り

アンケート結果
をグラフで
公開

アンケート
結果

学生Cグループ「課題」

7-7①

役に立っているのかわからない

メリットがない

デメリットもない

楽な授業→高評価
大変な授業→低評価
になりそう

習得率と満足度の40%も
通常は回答しない人だけ
採点と関係ないからいい
回答率を上げる。それと
評価が結果

可もなく、不可も無い
何人でも満足度が高い
考えられる

自由記入のアンケート
項目が少なくていい
か)具体的に書くといい
でいい

周りの人も
言っているのに、
自分だけが
思っている。

時間の有効活用

テスト期間に
重なっていて、
嫌になる。

アンケート以外の
何かに時間を使っている
アンケートに答える
時間があるから、
他のことに時間を
使え方が長い
(授業時間外で答える)

アンケートをする
時間か他の
ことに使いたい
(課題、自由時間)

教員からの
入室画面でいい
アンケートを
催促する

みんなが授業を
しているときに
アンケートを
催促する

提出しなくても
怒られないので
無傷
(not 強制)

未提出に
ペナルティはない

あくまでも
ボランティア

自分のため
の授業改善
話のネタになる

回答するよりも
メリットが大きい
か) (授業改善)
か) (授業改善)

やる気がでない
ので、ごほうびが
ほしい
(解答してもなくても
±0)

授業が終ったときに
改善案を聞きたい
アンケートがいい

わざわざ
アンケートを
うける

選択肢が
絶妙に
わかりにくい
(答も違う)

アンケートの
量(質問数)
が多い
正直 解答は
流水作業になる
(全部選択肢の
一番左とか)

結局は授業の
改善案を聞きたい
か) (授業改善)
か) (授業改善)

質問が多い
項目が多い
回答の時間が
かかる

高校の時から
授業評価アンケートは
めんどかった
(そういうもの??)

同じ質問に
たくさん答える
面倒

今の授業に
同じ質問を
答えるのは
面倒

なんか
めんどい

成績に反映
されないので、
しなくていい
と思う。

授業が
終わるまで
面倒

イベント的な
楽しい

学生もアンケートに
対してやる気が
ない

質問が
多いので、
回答の時間が
かかる

面白くない授業は
受けないで、アンケート
回答率は低いと思う

先の中にも、アンケ
ートに対する態度が
異なっている。せう
か)授業内容が授業外で
行われ

質問が
多いので、
回答の時間が
かかる

面倒

量が多い

アンケートを
忘れる

アンケートが
あることを
忘れる
(か) (授業改善)
(か) (授業改善)

アンケートの
存在を忘れる

学生Cグループ 「解決策」

授業時間
質の向上授業評価
アンケートを
やめる

Best

Answer!!

メリットデメリット

解答したら
加点方式アンケート回答率が
最も高い学部・学科
の希望を優先して
実現するアンケートの回答に
対し、少くともメリ
ットがあるようにす
る(例えばメリットを教員に
与える)未回答の学生に
必ずアンケートを送付する
(答えなければ教員に送付する
というように)アンケート
解答で成績
値上がる回答者の
概算科目に
加点アンケートを第
一選択に追加アンケートでは
課題にする
(焦つてしか学生は
動かない)実際にアンケートに
対して意見が改善
として活用される。それ
に回答したのメリットが
あると良いと思う回答しない
単位なし
↑
モチベーションの向上前年度からの
フィードバックを
授業中に紹介(前年度に
比べ)授業中に
実施授業時間
の一部で実
施授業内回答
にする
(授業中にアンケートを送付する
ように)授業時間内に
回答する授業内で強制
的にアンケートに
回答してもらう期末試験
の一部として
実施

強制的に解答

人気投票
にある
(民意は反映される)量を減らす
自由記述で単語
検索5分程度で
終わる質問
削減質問内容
の改善簡易アンケート
にする
(5分程度で終わる)答えやすい
選択肢にする問題数を
減らすアンケート結果を
この方に活用している
ので、おて用いする
べき役にたっている
かわからない
一教員が
改善的な
発表

役立つ

アンケートに回答し
たい人にメール
で催促する
(何回も)アンケートを
行っていることを
お知らせする教員にメールを送る
か、授業中に発表する
か、どちらかもしも授業中に
工夫する
(授業中にアンケートを送付する)リマインダーを
大量に送る学部ごとの先生が、
専門科目の授業の
際、呼びかける

告知

答えやすい

別紙資料② KJ法結果

課題

アンケートに対する不信感

アンケート自体への疑問

授業改善に期待できない

大学側への不信感

学生へのフィードバックの
欠如

アンケートへのメリット・
デメリットがない

アンケートによる
メリットがない

アンケートによる
ペナルティがない

学生の動機づけの低下

授業自体への
動機づけの低さ

アンケートへの
動機づけの低さ

授業外では回答を
忘れてしまう

アンケート実施における課題

質問項目に関する問題

アンケート通知の問題

アンケートシステムの問題

実施時期の問題

授業ごとに回答しなくてはならない

解決策

アンケートに頼らない
(やめることも含む)

フィードバック・改善の実施

学生へのフィードバック
の実施

改善の方針を示す

改善とその報告を行う

教員に責任を持たせる

アンケートへの動機づけを
高める

教員への外発的動機づけ

学生への内発的動機づけ

学生への外発的動機づけ

アンケート実施体制の改善

質問項目の改善

通知方法・回数の改善

アンケートシステムの改善

実施時期の改善

授業内での実施